

11 小児がん医療体制の整備

【目標】

○静岡県小児がん拠点病院の質の向上を図り、小児がん専門医療、長期フォローアップ、相談支援等の充実を目指します。

区分	現状値 (平成 24 年)	目標値 (平成 29 年)
国指定要件を満たす 静岡県独自の小児がん拠点病院の数	0 病院	1 病院

【現状と課題】

本県では、成人のがんとがんの種類や予後等が大きく異なる小児がんに特化した制度として、平成22年に県独自に静岡県小児がん拠点病院制度を創設し、小児がん患者の約半数が受診している県立こども病院を指定しました。

また、国では、平成24年度に小児がん拠点病院制度を創設し、今後、小児がん専門医療や長期フォローアップ等の充実を図ることとしています。

これまでの取組の結果、小児がん専門医療の連携体制や治療終了後の晩期合併症の予防等を行う長期フォローアップの連携体制が進んでいますが、県立こども病院を中心とした小児がん専門医療の連携体制や長期フォローアップ体制を強化することが必要です。

また、小児がん患者は、治療によって学校生活等を中断せざるを得ず、十分な学習機会が得られないため、教育環境等の整備を行う必要があります。

【具体的な戦術】

- (1) 県立こども病院は、静岡県小児がん拠点病院として、小児がん専門医による集学的医療の提供、長期フォローアップの提供、緩和ケアの提供、患者とその家族に対する支援、適切な療育・教育環境の提供等の小児がん対策の充実を図ります。
- (2) 県立こども病院は、国が指定する小児がん拠点病院の指定が受けられるよう院内体制の充実を図ります。
また、県は、県立こども病院のこうした取組を支援します。
- (3) 県立こども病院は、小児がん専門医療の提供や小児がん経験者が安心して長期フォローアップを受けられることができるよう、小児がん専門医療における医療連携と 20 歳を超えた患者の長期フォローアップについて、役割分担の明確化や連携を進めます。

- (4) 県立こども病院は、研修会や事例検討会等を開催し、連携病院の小児がんの診療の質の向上を図ります。
また、静岡県がん診療連携協議会との連携も進めます。
- (5) 県立こども病院は、陽子線治療の適応となる症例について、県立静岡がんセンターとの間で、陽子線治療の病病連携を進め、成長障害、発達障害及び二次がんのリスクの低減に努めます。
また、県立静岡がんセンターは、陽子線治療を行う小児がん患者やその家族が安心して治療を受けるために、家族宿泊施設の利用や療育・教育環境整備等の配慮を行います。
- (6) 県立こども病院及び連携病院は、希少がんが多く存在する小児がんについての情報共有を行います
- (7) 県立こども病院及び連携病院は、市町教育委員会や小中高校と連携して、小児がん患者の復学支援を行います。
- (8) 県立こども病院及び連携病院は、小児がん患者に対してチャイルド・ライフ・スペシャリスト、臨床心理士等による心理的な支援を行います。
- (9) 県立こども病院は、小児がん患者やその家族の支援に関する情報収集・情報提供を進めます。

◆◆◆コラム 小児がんの病病連携◆◆◆

本県では、国に先駆けて、がんの種類や予後等が大きく異なる小児がんに特化した拠点病院制度として「静岡県小児がん拠点病院」制度を設け、小児がん患者の約半数が受診している県立こども病院を静岡県小児がん拠点病院に指定しています。

県立こども病院では、小児がん専門医療や長期フォローアップ外来の設置、院内学級の設置など、院内体制の整備を進めているとともに、県内医療機関との医療連携を進めています。

特に、小児専門病院である県立こども病院と陽子線治療施設と小児科を併設した全国でも数が少ないがん専門病院である県立静岡がんセンターとは、放射線の影響が少ない治療方法である陽子線治療の医療連携や希少小児がんの医療連携を進めています。

○小児がんの特徴

区 分	小児がん
種 類	・白血病、脳腫瘍、神経芽腫、肉腫など（成人と異なる）
発症年齢	・小児期、思春期、若年成人
患者数	・全国で年間約2,000人が発症
治癒率	・約7割（推計）
治療の影響	・未成熟な身体への強力な治療の影響などで、後年、さらに別のがんを発症する確率が高い。 ・また、後年、血管障害などの成人病を一般より若年で発症しやすい。

○県立こども病院と県立静岡がんセンターの連携

(1) 陽子線治療の連携

小児がん患者は成長過程にあるため、成人と比較して、放射線治療による放射線の影響を受けやすく、後年、別のがんを発症しやすくなるため、がんを狙い撃ちできる陽子線治療に高い期待が持たれています。

県立静岡がんセンターでは、小児がん患者への陽子線治療の臨床研究を行っており、県立こども病院との医療連携を進めることにより、さらに質の高い小児がん医療が実現できます。

(2) 希少小児がんの連携

小児がんは種類が多く、また、患者数が少ないため、非常に稀な小児がんの場合、治療方針や治療方法の選択が困難な場合があります。

県立静岡がんセンターは、小児科を有する全国有数のがん専門病院であり、がんの専門医が多く、様々ながんの治療を行っているため、小児専門病院である県立こども病院との医療連携を進めることにより、質の高い小児がん医療が実現できます。